

ウェブサイトはこちら!

福島第一原子力発電所で働く
みなさんへのお知らせ

2019年



月刊 いちえふ。

INDEX

■ いちえふのいま

げん し ろ かくのうよう き
2号機原子炉格納容器内部の
調査を行います

■ 1Fを守る仲間たち

● 千代田テクノルのみなさん

■ 安全の心得【火気作業編⑧】

■ 福島クイズ

プレゼント

福島名産の
つめ合わせ

とびっくす



今年も安全第一!

新年おめでとうございます。今年も安全・着実な
作業を最優先に、廃炉に向けて力を合わせて
がんば
頑張っていきましょう。

路面の凍結にはご注意

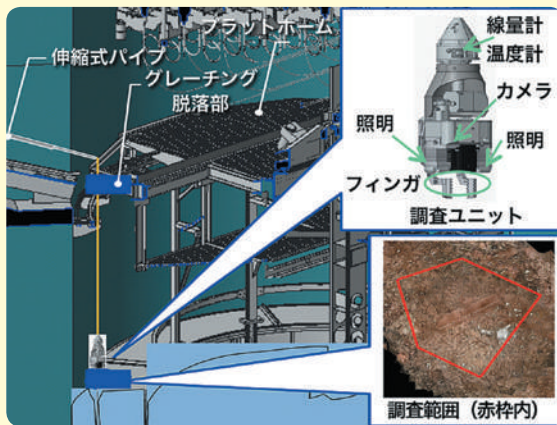
この季節は路面が凍結しやすいです。
凍結による転倒、車のスリップには十分
に気をつけてください。

成田山節分会が開催!

2月3日、いわき市勝行院で成田山節分会
が開催。護摩祈祷前に僧侶のみなさんが、
豆をまきながら練り歩きます。

いちえふのいま

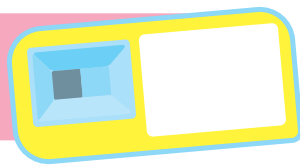
2号機原子炉格納容器内部の調査を行います



今回の調査場所および調査ユニット

2号機の原子炉格納容器（以下、PCV）内部調査は、
2018年1月にも実施しました。そのときの調査では、
既設の設備に大きな変形・損傷がないこと、底部全体に
堆積物があることを確認しました。今回は、調査装置を
堆積物に接触させ、堆積物の性状（硬さや脆さ）を把握
する調査を2019年2月ごろに実施する予定です。

調査では、前回使用した装置の先端にある調査ユニットに
付属していたカメラ・照明構造を改造して新たに「フィンガ
構造」を採用。また、従来と同様、PCV内の気体が外部に
漏れにくい対策を行い、万が一漏れした場合でも、周辺
環境へ影響を与えないよう、ダスト濃度を監視します。



ガラスバッジの管理を通じて 1Fで働く人の安全と健康を守る

1Fで働く人の安全と健康を守る大切な装備の一つに、「ガラスバッジ」と呼ばれる個人線量計があります。これに身につけて作業をすることで、一定期間にどれだけ放射線を受けたかを測ることができます。今回ご紹介するのは、このガラスバッジを扱っている千代田テクノルです。檜葉町にある同社の福島営業所でお話をうかがいました。

震災で県内の営業所が使えなくなり 1Fで使うバッジを県外から持ち込んだ

—— お仕事の内容を教えてください。

佐々木さん：1Fの作業員の方々にお使いいただいたガラスバッジやガラスリングを、毎月回収して茨城県大洗町にある当社の測定センターに送り、そこで測定した放射線量を1Fにご報告



メッセージ

1Fの廃炉に向けて、私たちが放射線安全の面で協力いたします。くれぐれも健康に気をつけて、作業をしてください。



(写真左から)

ささき ゆきただ 佐々木 行忠さん かとう や あさこ 叶谷 朝子さん くろさわ ゆうた 黒澤 優太さん

するという仕事をしています。当社では、原子力発電所だけでなく病院などで放射線を扱う方々など、全国で毎月約30万人分の放射線量を測定しています。

叶谷さん：私はガラスバッジの発送や回収のほか、営業の仕事もしています。ガラスバッジを1Fにお届けするときには、あらかじめ個人名を印刷したラベルを1枚1枚貼る作業が必要となります。また、測定センターから出てきた結果を1Fにお届けするのも、私たちの仕事です。

黒澤さん：私は震災後に入社して、今年で6年目になります。主な仕事は、1F5、6号機の放射線量を分析する機器の定期点検・修理のほか、2Fの放射線量の分析装置の点検などを行っています。また、叶谷さんのお手伝いで、ガラスバッジの発送や回収などの仕事もしています。

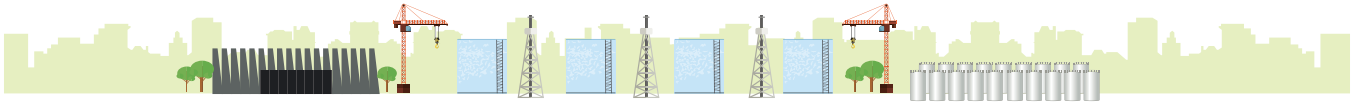
—— 震災があったときはどのような状態だったのですか。

叶谷さん：ガラスバッジの報告書を1Fに配達して、富岡町にあった営業所に戻るところでした。ひどい揺れで運転ができなくなって車を降りたのですが、立ってられないほどでした。営業所に戻ると、ガラス窓の外枠のフェンスが落ちていたり天井が抜け落ちていたりし、敷地には地割れもできていました。

地震直後に起きた津波で浪江町にあった自宅が流されてしまったため、富岡高校の体育館に一時避難しました。翌朝は営業所に集合しましたが、とても仕事ができる状態ではなかったですね。さらに、営業所でもその日の朝5時30分すぎには避難命令が出ました。



放射線量を測定するガラスバッジ。名前と装着する部位(ここでは「胸」)などが印刷されている



数多くのバッジを扱うので 間違いがないように声を出して確認する

—— この仕事で大変なのはどこですか。

叶谷さん：震災直後は1Fで働く作業員の方の人数は今よりもずっと多く、月に8,000個から10,000個のガラスバッジを用意していました。それだけの数を、私を含めて2、3人の社員で管理しなくてはならないのです。

安全と健康に直結することですから、間違いがあってはなりません。どのバッジがどの人のものか声を出してみんなで確認するので、時間がかかりましたし、神経も使いました。忙しい時期になると、夜遅くなったり休日出勤をしたりするもの当たり前の状態でした。



佐々木さん：翌月に使うガラスバッジは、前の月の下旬にお届けします。そして、前の月のバッジは翌月初めに回収して、測定センターに送ります。測定の終わったバッジは、再び使えるように再生されて営業所に送られてきます。

つまり、1人につき、使用しているバッジ、測定しているバッジ、再生された翌月分のバッジという3つのバッジが必要になるので、この管理は大変です。さきほど、全国で約30万人分の測定をしていると言いましたが、そのために100万個近いバッジを扱っているわけです。

黒澤さん：今、1Fには4,000個から5,000個のガラスバッジをお届けしていますが、やはり月末と月初の配布・回収作業は大変です。発送のときには複数の人が何度もチェックをして間違いがないようにしなくてはなりませんし、納品するときにはラベルを手で貼るので手間がかかります。

—— 仕事でやりがいを感じる時はどういうときですか。

黒澤さん：ガラスバッジをご利用いただいている方に、「ありがとう」と言われたときが一番うれしいですね。特に、午後一番に連絡があって「夕方までに欲しい」という急ぎの注文を受け、頑張って数をそろえて車で運んでいったときなどに



指にはめるタイプのガラスリング。指先の部分の放射線量を測る

感謝の言葉をかけていただくと、「この仕事をやっていてよかった」と感じます。

叶谷さん：私は避難先で生活しているため、昔からの知り合いとは離れ離れになってしまいました。しかし、営業の仕事のおかげで昔の知り合いと顔を合わせる機会があります。やりがいというのは少し違いますが、「元気でしたか？」という声かけから会話がはずむという経験ができるのは、営業という仕事だからこそだと思います。

佐々木さん：全国の原子力発電所に行く機会があり、そこで作業員の方々が、私たちの販売した防護装備を身につけて、放射線から身を守りながら仕事をしている様子を目にすることが出来ます。そんなとき、作業員の方々の安全を守る一端を担っているという実感がわいてきて、やりがいを感じます。

つと お勤め先

株式会社千代田テクノル

1956年に個人被ばく線量を測定する会社として設立。現在は、原子力や医療など、様々な分野で放射線の利用や防護などの業務を行っている。

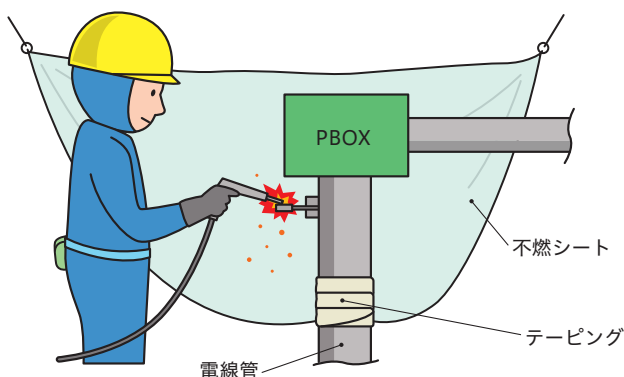
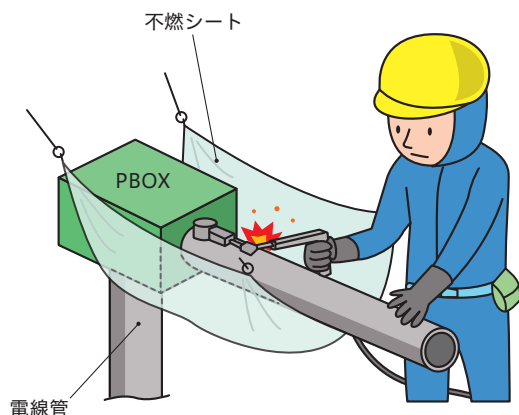
● 続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください
URL: <https://1f-all.jp/interview/55/>

安全の心得

火気作業編 8

火気養生をしっかりと行おう ⑤

アースボンド作業時の火気養生ポイント



福島QUIZ

クイズ

今月は福島QUIZ 第2問です。福島県にまつわるクイズを毎月出題します。あなたはどのくらい知っていますか？

Q2. 1968年に制定された福島県章。図案化のもとになった文字は？

① ふ

② く

③ し

④ ま

▶ 今号のプレゼント

福島名産のつめ合わせです。

※賞品は写真と異なる場合がございます



▶ 応募方法・プレゼントのお受け取り方法

福島QUIZに正解した方の中から抽選で5名様にプレゼントをさしあげます。

入退域管理棟、福島第一登録窓口通入口にある応募箱に必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。

応募箱設置期間 1月20日～2月10日

- *応募用紙は応募箱横に設置しています。
- *当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
- *答えはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」新着情報で発表します。

1FOR
ALL JAPAN
廃炉のいま、あした

ウェブサイトの紹介

<https://1f-all.jp/>

福島第一原子力発電所の廃炉事業を進める作業員のみなさんに、働く仲間や応援者のメッセージを伝えるため2015年10月に開設した「1 FOR ALL JAPAN」です。ウェブサイトでも本誌でも、作業員のみなさんを応援していきます。



月刊いちえふ。
2019年1月号

【発行日】2019年1月20日

【発行】
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
廃炉コミュニケーションセンター
コミュニケーション推進グループ

【お問い合わせ先】
Mail: info@1f-all.jp